

第708回

## I B C番組審議会 議事録

— 議 題 —

I B Cテレビ

J N N 4局共同制作番組「見つめる先に 東日本大震災 15年」

2026年3月17日 (火)

(株) I B C 岩手放送

## 第708回IBC番組審議会

1. 開催日時 2026年3月17日(火) 午前11時

2. 開催場所 IBC岩手放送 Dホール

3. 委員の出席 委員総数 9名

出席委員 8名

出席委員の氏名

委員長 田代 高章

副委員長 熊谷 志衣子

委員 郷右近 勤

柴田 千春

菊地 文彦

高橋 司

繁田 奈菜子

後藤 高宏

欠席委員の氏名

龍澤 尚孝

会社側出席者

眞下 卓也 代表取締役社長

八木 宏樹 常務取締役編成局長

兼平 宗彦 取締役メディアセンター長

大志田 融 報道制作部長

竹本 和弘 ニュースエコー編集長

事務局

藤原 崇史 番組審議会事務局長

平澤 泰志 番組審議会事務局員

4. 議題

IBCテレビ

JNN4局共同制作番組「見つめる先に 東日本大震災15年」

3月8日(日) 午後2時～午後3時24分 放送

## 5. 議事の概要

### <委員の主な発言>

- 震災10年以降の5年で浮かび上がった新たな課題が丁寧に取材されており、「またか」という印象を持つことなく視聴できた。4局共同体制が目に見えにくい課題を掘り起こす力を発揮した。
  
- 「家族」「ふるさと」「なりわい」の三つの切り口で被災3県を並べた構成は、震災の複合的・広域的な性格を改めて実感させた。大船渡・元正栄北日本水産のパートは、二重被災を乗り越えてコンサル事業やアップサイクルに挑む親子の姿が力強く希望を感じさせた。青森テレビの避難検証も秀逸で、今後の防災に生かしてほしい。
  
- 他県の現状をこれほど深く知る機会はなかった。エンディングでは各県それぞれテーマに沿った課題提起をされていて、秀逸な作りだと思った。
  
- テレビは視聴者が意図せず情報に接触できる媒体であり、語り部が減少している中で震災を伝え続ける語り部としての役割が大きいと感じた。
  
- 福島への帰還困難区域の実情を「ぼんやり」しか知らなかったことを痛感した。長く裁判で戦っても解決しないし、戻れない。どうして除染をしないのだろう、何と戦っているのだろうと考えさせてくれる番組だった。  
なお、住民目線の報道に加えて、国・自治体の取り組みなども多面的に伝えてほしい。
  
- 「壊滅的」との表現が繰り返し出てきた。また、津波の映像については事前に予告が出たが地震で揺れている映像も心苦しく感じる視聴者がいるのではないか。
  
- 車と徒歩の避難時間を比較する図表について、徒歩に誘導するためのデータではないかと疑われないように説明してほしい。
  
- 原発の問題は全国で知っていただきたいと感じさせる番組だった。